

1 学校教育目標 「感謝の心を持ち、自立に向かう生徒の育成」 ～ みんなが楽しい学校に ～	2 本年度の重点目標 (1) 授業改善を図り、学ぶ生徒の育成 (2) 自分から挨拶ができる生徒の育成 (3) 安心して、学び生活できる集団を作る生徒の育成 (4) ボランティア精神にあふれた生徒の育成 (5) 部活動の活性化
--	--

3 目標・評価

① 学ぶ意欲の育成・習慣化に努め、学力の向上を目指す。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	○系統性・連関性のある教育課程の編成	・有効な教育課程の作成 ・授業時数確保と行事等諸活動の適切な組み方	・生徒の実態に応じ、基礎基本の定着と活用力の向上を念頭に置いた年間のカリキュラムを作成する。 ・規定の授業時間数を確保する。	・学期ごとに年間計画を見直し、生徒の実態に応じた学習内容であるか検討し、修正・改善を加えていく。 ・2週間先の週案を回覧し、行事・教育活動に見直しを持って取り組めるようにする。	教務	中尾
教育活動	●志を高める教育	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える生徒の割合を県平均以上にする。	・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	進路指導	中島
	●学力向上	指導方法の改善	・諸調査における無回答を減らす。 ・諸調査において対県比や到達目標への達成率を前年度より1P以上向上させる。	・授業実践の方法を研究し、互いに授業公開をしながら生徒の成長の段階を全職員で観察し、それを受けてより良い指導法を模索する授業研究会を開催する。 ・授業の中で「学びあい」を進めるために、教師の説明する時間を極力減らして、生徒が主体的に活動する時間をしっかりと保障する。 ・生徒の力を引き出す視点で授業づくりを進め、質の高い課題に挑戦する場を授業の中に設定する。	研修部	藤田 吉田 松本

② 生徒理解に徹した積極的な生徒指導・教育相談の確立に努め、人権教育を充実させ、特別支援教育に対する意識も高める。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	○特別支援教育の充実	・教員の専門性と意識の向上	・特別支援教育に関する研修会を行い、教員の専門性を向上させる。 ・ケース会議などを充実させ、支援の在り方、支援の方向性を見据えて適切に支援できる教員を増やす。	・それぞれの生徒に対して適切な対応ができるように、専門的知識を習得する研修を行う。 ・支援が必要な生徒の情報を共有し、該当生徒に対してケース会議を開いて、すべての教員が対応できる環境を整える。	特別支援C	下尾
教育活動	○生徒指導・教育相談の確立	・生徒指導の重点指導方針を活かした自己指導力の育成 ・個に応じた支援の推進	・自分から挨拶をするように心がけている生徒の割合を60%以上にする。 ・自分のことが好きだと答える生徒の割合を60%以上にする。 ・先生に困ったことや悩みを相談できると答える生徒の割合を60%以上にする。	・配慮を要する生徒について、インシデントプロセスの手法を用いて対応を検討し、実践する。 ・生徒会と連携し、生徒の主体的な活動を位置づける。 ・学校教育目標を意識し、みんなが楽しいとは？ということを生徒に返しながらか職員で、生徒同士・生徒と教師が繋がり、互いに尊重し合う態度を育成する。 ・グループ学習による「繋がる」授業実践を行う。 ・整然とした環境の中で育まれる、安定した生活習慣と規範意識の醸成を目指す。 ・毎朝のあいさつ運動を実施する。	生徒指導・生徒会	野口 松尾 野崎 松本
	●心の教育	・仲間づくりの推進 ・生徒の自主的な活動の推進 ・人権教育と情報モラル教育の充実	・学校行事・生徒会行事、係活動等に積極的に取り組んでいると答える生徒の割合を60%以上にする。 ・学校に来るのが楽しいと答える生徒の割合を60%以上にする。	・定期的にGWTやエンカウンターを取り入れ、互いを認め合う授業に取り組む。 ・生徒・教師・保護者による挨拶運動を実施する。 ・ボランティア活動を活性化させる。 ・人権教育講演会を開催する。 ・授業で情報モラル教育に取り組み、個人情報や著作権など、生徒の正確な知識の向上を目指すことで、モラルアップにつなげる。	道徳教育・生徒会・特別活動	大野 野崎 吉村 穴見 松本
	●いじめ問題への対応	・全教育活動で「思いやりと笑顔」が見られる教育の推進	・「いじめは人権問題」という強い意識、「どの学校にもいじめはありうる」という認識に立って、生徒の言動に注意深く対応し早期発見に努める。	・年2回のhyper-QUの実施と分析・考察を行う。 ・いじめアンケートや日記・学活ノートを通して、早期発見や早期対応を適切に行う。	生徒指導・人権・同和教育・教育相談	野口 松本 松尾

③ 地域に根差した信頼される学校づくりに努める。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・衛生管理の改善・充実	・職員室等の整理整頓を行い、仕事の効率化を図る。 ・校舎内外に花を飾り、環境美化に努める。 ・定時退勤日の実施率を50%とする。 ・学校集金会計支援により、学級事務の負担軽減を図る。 ・副担任・級外による支援協力により、担任の負担軽減を図る。	・職員作業により、長期休業を利用して、職員室等の整理整頓を図る。 ・生徒会とPTAと連携して、花いっぱい運動を推進し、校舎内外に花を飾り、環境美化を進める。 ・タイムマネジメントを行い、お互いに声をかけ、定時退勤日の確実な実施を行う。 ・校内LANを活用し、効率的な事務処理を行うとともに、教材の共有を図る。 ・職員が一致して指導にあたるために、マニュアルを作成して、徹底を図ると共に、心のチーム学年、チーム学校づくりを行う。	教務・情報担当	中尾 古館 前田 穴見
	○保護者・地域に信頼される学校づくり	・学校安全管理に基づく危機管理体制の整備 ・学校公開と情報提供の推進	・危機に対し組織的にスピード感をもって対応する。 ・各分掌部からも定期的な便りの発行をする。 ・携帯掲示板のアクセス数を1日あたり100以上にする。 ・学校教育目標の周知率を80%以上にする。 ・学校評価アンケートで評価を3.5以上とする。	・常に学校に関する情報収集を行う。 ・校内外の安全点検を計画的に行う。 ・適時、携帯掲示板を活用し情報を発信する。 ・保護者や地域の方が参加しやすい学校行事の工夫をする。 ・地域の文化や取組等を携帯掲示板、文化発表会等で発信する。	教務・情報担当	中尾 穴見 前田
活教活動	○地域に貢献する活動の推進	・生徒の主体的な活動の促進	・生徒が自ら活動し、地域の方とのふれあいを大切にする。	・地域の各種行事や会合へ積極的に参加する。	生徒会	野崎

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●健康・体づくり	・健康教育による自己の心身の健康管理の充実 ・精神面、技術面の向上を目指した部活動指導 ・感染症予防への取組	・「早寝、早起き、朝ごはん」ができている割合を85%以上にする。 ・病気の件数が前年度を下回るようにする。 ・持久力の数値を前年度より上げる。 ・県大会に出場する部活動を増やす。 ・感染症の流行情報収集を素早く行い、早期対応により感染症の流行を防ぐ。	・「早寝、早起き、朝ごはん」の意識の大切さを多くの場面で意識させ、自己の健康管理に活かせるようにする。 ・生徒自身が、学校で起こりやすい病気のやけが等を知り、予防できるようにする。 ・体育の授業や部活動を通して体力づくりを推進する。 ・県大会を目指す機運を高める。 ・保健室だより等を通じて感染症予防についての情報提供をするともに、学級活動等で感染症の流行を防ぐための方策について考えさせる時間を設け、生徒自らの健康管理意識を高める。	保健・食育・保体	福島 弓山 松本

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目